

福島第一原子力発電所廃炉作業の 後方支援としての役割を担っています（その2）

- 先頃、当所の物揚場（港に面した敷地）において、福島第一廃炉作業で使用するタンク（溶接型）の組み立て作業を行いました。
- この作業を当所で行うことで、福島第一では、作業エリアを有効活用できるとともに、結果的に被ばく低減と作業負担の軽減がはかられました。
- 物揚場での作業は、作業環境の観点で効率的に作業を進めることができる他、資材の積み下ろしなど運搬の面でも利点があります。組み上がったタンク（容量約1,200m³・重量約70t）は、順次、専用の船に積み込み、福島第一まで海上輸送しました。
- 当所はこれまでも、人的な支援をはじめ、港湾内の海底土を固める被覆材の製造や、フランジタンク底板補修の確証試験なども行っています。



溶接型タンクの作業風景



溶接箇所を確認をしている様子



大型クレーン（吊上荷重約500t）での
輸送船へのタンクの移動



タンクの輸送